

第7回 南中学区の在宅医療カフェ(意見交換会)のまとめ

参加者 25人

1Gのタイトル	2Gのタイトル	3Gのタイトル
高齢化	元気な高齢者	住い方に格差
若者が減少	高齢者の増加	高齢化の進行
建物が少ないので通学が危険	コミュニケーションが少ない	認知症・引きこもり
地域格差	便利(環境)	相談体制の認識不足
交通手段が少ない	医療について	人間関係の希薄
地域コミュニティの希薄	単独カード: 高齢者の肺炎・口腔ケアの認識不足	連携体制の充実
医療福祉サービスの不足	少子化・空き家・アパート増・外国人の多い地域	支援者(ボランティア)の疲弊
	町づくり(地区を横断)	単独カード: 薬の種類が増えてきた・在宅医療が
		広まっていない・産業が少ない(雇用の低下・流出)
《スローガン》		
◎繋がろう! 南中学区	◎元気な高齢者になって社会参加をしよう! 活気ある町づくりを	◎ほどほどの関係(陽だまりのような)で市と連携
《全体的に》		
高齢化	高齢化の進行に伴い独居も増加しているが、畑など農業をおこなっている元気な高齢者も存在	
住環境	交通手段も便利な地域とそうでない地域で格差がある。田園地帯で子供たちの通学路に危険が潜んでいる外国人の多い地域やアパート増、空き家など地域差あり。	
コミュニティ	どのグループも関係性の希薄を感じているし、個人情報などもあり一歩踏み込めないと感じている	
医療福祉	地域差があり、便利(安心)と不便さが2分化。悩みなど、話しやすい相談者を希望されている(相談場所)	
	連携(協力)しやすい体制が育っている	
面積が大きい	大きい地域のため環境や暮らし方等に相違あり	
<p>～あとがき～</p> <p>昨年度から、中学区を対象にカフェ(話し合い)を行い南中学区で7回目になりました。アンケートには「南中学区とすると面積が広いので意見の共有が難しく、旧学区での集いを計画して頂きたい」と記載されていました。山・里・海とは言いませんが環境が違くと暮らし方や考え方、課題も異なります。本来は自治会単位での話し合いが最も具体的で変革に(ご近所関係や住民意識の向上など)適しているのだらうと思います。しかしながら湖北の中学区は20か所あり、まだ半分も実施できていない現状です。まずは、中学区での話し合いがクリアできるように開催場所を検討したいと思っています。できる事なら、参加された方が自治会などで同様の話し合いをして頂けると有り難いです。その時はお手伝いをさせていただきますので宜しくお願いします。たくさんの貴重なご意見を頂きましてありがとうございました。</p>		
長浜米原地域医療支援センター 今井享子		